



SANEYOSHI Noritada

1972年10月19日生まれ(47歳)
愛媛県南宇和郡出身

【選手歴】

1988-1990年 南宇和高校
1991-1994年 立命館大学
1995-2007年 ガンバ大阪

【代表歴】

1993年 夏季ユニバーシアード日本代表

【指導歴】

2008年 ガンバ大阪ユース コーチ
2009年-2012年3月 ガンバ大阪 コーチ
2012年4月-2013年 ガンバ大阪 ヘッドコーチ
2014-2015年 名古屋グランパス コーチ
2016年 ガンバ大阪U-23 監督
2017-2018年7月 ガンバ大阪ユース 監督
2018年7月-12月 ガンバ大阪U-23 監督
2019年 京都サンガE.C. コーチ

監督 實好 礼忠

「満員のファン、サポーターが入った新しいスタジアムのあの雰囲気、あれは素晴らしいですね。普段試合ではテンションが上がるってことはほとんどないけど、あの日はいきなり上がりっぱなしで、試合が始まるまで、冷静に、落ち着くことばかり考えていました。」2020年京都サンガF.C.の監督に就任した實好礼忠は、プレシーズンマッチが行われたサンガスタジアム by KYOCERAの印象をこう語った。「選手とともにバスでスタジアムについた時、手前の橋の上からスタジアムの周りにいるファン、サポーターの数を見て『これはヤバイぞ』と。だから試合前、緊張するからわざとピッチを見に行かなかったんですよ。」

そんな満員のサンガスタジアムで行われたセレッソ大阪とのプレシーズンマッチは、西京極とは違ったファン、サポーターの熱気に包まれた中で、キックオフの時を迎えることになる。

昨シーズンは中田一三監督のもと、コーチとしてチームを支えた。「このメンバーで結果として8位というのはあり得ない、というのが本心。もっとできるし、もっとできたはず。」そんな思いからシーズン終了後監督就任のオファーに、食い気味に「やります、やらせてください」と応じた。

学生時代から指導者を目指していたという實好監督。「(学生だった)当時、まだリーグもなくて、サッカーのプロ選手という選択肢はなかった。それもあって将来は指導者という思いはずっとありました。大学3年生

の時に」リーグができて、ガンバ大阪に入団した後もその気持ちは変わらず、今実際に指導者としてサッカーに関わっています。」
現役の選手時代から指導者目線でサッカーを見てきたからこそ見えてくるもの、その力を発揮する機会がまさに「今」なのだ。

プレシーズンマッチ、結果は2-3と敗れたが、實好監督は内容としては十分に満足しているという。「ゴールへ向かう気持ちは十分に表現出来ていたし、やるべきことは出来ていた。ただ、3点取られて負けているから、その部分は満足と言っちゃいけない。実はこの試合の前に練習試合でJ1クラブと対戦して1-6で負けています。この時は得点を取られたらそのままズルズルとやられ続けましたが、セレッソ戦の時は違った。先に1点は取られましたけど、庄司悦大がすぐに取り返したり、試合終了間際まであきらめずゴールを目指した結果、ピーター・ウタカのゴールが決まったり。これはファン、サポーターの声援のおかげ。練習試合の時とはケタ違いの数の声援のおかげで、あと一歩走れないところが走れたり、背中を押してくれたりする。応援、声援ってそういうものです。今季我々はJ2優勝を目標にシーズンを戦います。だからファン、サポーターの皆さんにも、スタンドから精一杯の応援と一緒に戦ってほしい。」

2月23日、サンガはアウェイでレノファ山口FCと開幕戦を戦い0-1で惜敗する。そして待望の新スタジアムでホーム開幕戦と

いうこのタイミングで、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、リーグ戦が延期。結果、リーグ戦は約4か月中断することになる。「選手もスタッフも、ファン、サポーターの方々も本当に楽しみにしていたと思うので、残念な気持ちで一杯でしたね。」
ホーム開幕戦が延期になった気持ちを實好監督はこう語る。
「ただ中断になっていた4か月間、選手たちは医療従事者の方々に向けてのメッセー



ジヤクラブでの企画や動画など、様々な形で貢献してくれ、自粛期間をしっかりと過ごせたと思います。」

そして6月28日、ようやくサッカーのある週末が帰ってきた。サンガスタジアムのこけら落としでもあったプレシーズンマッチから約140日、ジュビロ磐田を迎えて、ようやくサンガが新スタジアムでの開幕戦を迎えることになるが、實好監督をはじめ、みんなが望んだ「満員のスタジアム」ではなくリモートマッチ。応援や声援はおろか、スタンドにはファン、サポーターの姿さえなかった。そんな中、サンガは試合の主導権を最終手放さず、2-0で新スタジアムでの初勝利を飾る。「プレシーズンマッチの大声援が焼き付いていたので、無観客でも声援がないという感じはしなかったですね。勝った瞬間には声援が聞こえた気がしたぐらい(笑)。」

第4節のアビスパ福岡戦は待望の観客を入れての試合。ただし観客の人数に制限があり、観客にも応援歌や声援は禁止という、今までとは全く違う雰囲気の中での試合。監督や選手たちに、やりにくさはなかったのだろうか。「良いプレーに対してファン、サポーターから拍手が起こる、ヨーロッパ的な雰囲気だと感じましたね。新しい感覚でした。」
こんな状況下ではあるが、ファン、サポーターに今できる精一杯の応援が、スタジアムに良い雰囲気を作り出し、選手を後押しした

のは間違いなさそうだ。

新スタジアムで行われた第2節のジュビロ磐田戦、第4節のアビスパ福岡戦ともにサンガは安定した守備から主導権を握り、多彩な攻撃パターンへ繋げて勝利を手中にした。この2試合の勝因を聞いてみると「安定した守備からの組み立てですね。その中でも一番は積極的にゴールへ向かっていく姿勢ですかね。」

實好監督はプレシーズンマッチ後のコメントと同じ感想を口にした。確かに磐田戦のピーター・ウタカ選手のゴールには「何が何でも」という気持ちが見えたとし、福岡戦の野田隆之介選手のゴールは3人の相手ディフェンスに挟まれながらも執念のヘディング。その後PKを得たのも、ゴールへ向かう気持ちからの波状攻撃の中で、荒木大吾選手のシュートが相手の手を誘ったのだ。
今年のサンガは、どんな時もゴールへ向かう姿勢を崩さないし、まさにその姿勢が結果にも如実に表れている。

最後にスタジアムに駆けつけてくれたファン、サポーター、またリモートで応援してくださる皆さんにメッセージをお願いした。
「ファン、サポーターの皆さんの応援が本当に力になっています。試合中の選手の声、戦っているときの迫力ある音を感じて欲しいので、是非たくさんの方にスタジアムに来ていただきたいです。」



早く満員のファンサポーターが集い、フラッグが舞い、スタンド中で応援歌を歌い、声援と手拍子で選手を鼓舞する従来のスタジアムに戻ってほしいと思いつつ、今しか見られないこの風景も悪くない。
その時出来る精一杯でチーム、選手を鼓舞、応援し、今季こそ目指すは優勝。
新スタジアムで選手たちにシャレを掲げてもらおうではありませんか。

(取材：2020年7月12日)

京都パープルサンガ後援会 2020年度通常総会を開催



ご挨拶 堀場厚会長



聞き手 和田アナウンサー



ご講演 實好礼忠監督

令和2年2月19日(水)、午後6時30分より、ANAクラウンプラザホテル京都において京都パープルサンガ後援会の2020年度通常総会が開催されました。司会者より出席者確認(会員総数245名、出席は委任状含め148名)のうえ、総会が成り立つ報告を受けた後、事業報告、会計報告、役員・理事組織、事業計画、収支予算の各議案は、満場一致にて全て可決されました。続いて第2部講演の部では、フリーアナウンサーの和田りつ子さんが聞き手となり、京都サンガF.C. 實好礼忠監督をお迎えし、京都で過ごし

た大学時代の貴重なエピソードや、Jリーグとしての体験談を、会場からの質問と交え楽しくお話し頂きました。
第3部交流・懇親の部では、本会名誉会長の京都市長門川大作様、同相談役の(株)京都パープルサンガ代表取締役社長伊藤雅章様のご挨拶に続き、同名誉顧問の社団法人京都府サッカー協会村山義彰会長による乾杯で開宴。締め括りは、大奈さんの「ジャヤジャヤサンガ」、そして平井誠一副会長の閉会の辞をもって成功裡のうち閉会となりました。